

地域連携センター便り



念頭のご挨拶



病院長 かごしま 籠島 みつる 充

あけましておめでとうございます。日頃は上越総合病院に多大なるご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

さて、昨年もまたコロナに翻弄された一年でした。当院では重症者を含む60名を超える感染者を受け入れたほか、上越地域のワクチン集団接種会場に選定され、非常に多くの方にご利用をいただきました。職員一同の献身的な努力により、通常診療に支障を来すこともなく、何とか乗り切ることができました。みなさまにもいろいろとご心配、ご迷惑をおかけいたしましたが、この場を借りてご協力に感謝を申し上げます。

さて、今年は2024年度からの医師の働き方改革にむけた準備に目途をつけなければなりません。今後は勤務医の時間外労働が厳格に規制され、時間外労働の上限時間が定められるほか、休日・夜間に働いた医師は、診療日の日中に代償休息を確保しなければなりません。したがって医師が診療に割ける時間が短縮するのは避けられません。

地域の中核病院としては、手術や高度な検査、救急医療など、病院でしかできない診療を欠かすわけにはゆかず、これらは優先的に継続しなければなりません。一方で、病状がおおむね安定している患者さんの経過観察と投薬については、かかりつけ医として、地域密着型の病院やクリニックの先生方をお願いせざるを得なくなります。病状に変化があったときは、もちろん当院で対応いたします。心不全地域連携パスのように、病診連携を進めるためのツールも検討してゆく必要があるでしょう。先生方にはお手数をおかけいたしますが、何卒ご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

話題は変わりますが、このたび上越地域は、国が定める地域医療構想の重点支援区域に指定されました。医療やケアを要する高齢者が増える一方で、病院では働き手の確保が切実な問題です。地域医療の持続可能性という点から、この地域における医療の将来像について議論が加速してゆくものと思われませんが、当院としても、どのように貢献してゆけるか、しっかりと検討し、行動してゆきたいと考えております。

今年の干支は壬寅（みずのえとら）です。木々が芽吹き始め、新しい成長の礎となるという意味だそうです。コロナと共存する医療のあり方に取り組みながら、働き方改革と地域医療構想の中で、上越総合病院の良き伝統を残し、活かしてゆくために、職員一同力を合わせ、邁進してゆく所存です。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

外科における低侵襲手術の現状

外科 さとう 佐藤 ゆう 優

新年あけましておめでとうございます。
2022年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様方には日頃より当院に多大なるご協力とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

今回は当科での低侵襲手術の現状についてお話をさせていただきます。「低侵襲手術」とは従来行われてきた手術に比べ、患者さんの体に対する侵襲（負担）を減らした体に優しい手術のことです。一概に体に優しいと言っても、傷が小さい・出血が少ない・痛みが少ない・入院期間が短いなど様々な意味合いを持ちますが、主に当科では表1に示すような手術が「低侵襲手術」にあたるものと思われれます。

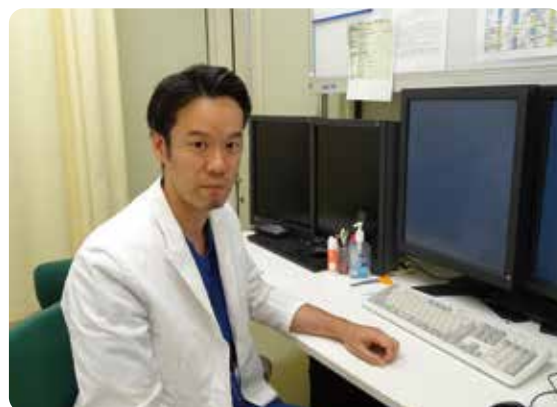
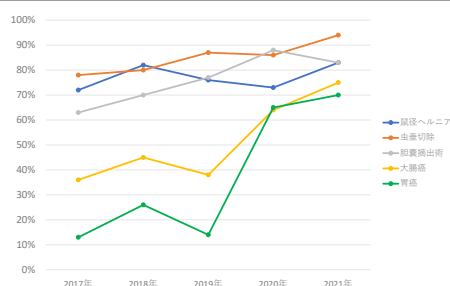


表1. 当科で行っている
主な低侵襲外科手術

- ・食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術
- ・胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術
- ・大腸癌に対する腹腔鏡下結腸・直腸切除術
- ・鼠径部ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術
- ・胆嚢結石に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術
- ・虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除術
- ・内痔核に対する痔核硬化療法（ジオン注射）
- ・乳癌に対する乳房温存手術・センチネルリンパ節生検

図1. 各疾患における
低侵襲（腹腔鏡）手術の推移



今回、これらの「低侵襲手術」について2017年からの手術数をまとめてみました。図1を見ますと、胆嚢摘出術・虫垂切除術・鼠径ヘルニア手術でそれぞれ約70～90%と多くの患者さんに腹腔鏡手術が行われておりました。ただし、大腸癌・胃癌に関して2019年以前は少ない傾向にありましたが、2020年より適応を広げることでそれぞれ約70%を越える患者さんで腹腔鏡手術が行われるようになりました。

続いて表2では、痔核手術についてまとめました。上越地域の医療事情もあり、ここ2年で手術数自体が増加しているのが分かります。また小さい痔核に対しては、

切除を行わずに硬化療法（痔核にジオンと呼ばれる薬剤を注入し、硬化させることにより改善させる方法）を行うことで、より痛みの少ない手術が可能となっており、この硬化療法を行う患者さんもここ数年で急激に増えてきております。

また、乳癌に対して乳房全摘を行わずに温存を行う乳房温存手術・腋窩リンパ節郭清の省略を目的としたセンチネルリンパ節生検についても、それぞれ図2にまとめました。それぞれ約50%、80%近くの患者さんで行われていました。

最近では術前化学療法（抗癌剤治療）を積極的に行うことにより、以前は全摘しないといけなような乳癌も、抗癌剤で縮小させてから温存手術を行うような試みも行っております。

これらの「低侵襲手術」の広がりにより、もともと年齢や体力・基礎疾患により従来の手術が難しかった患者さんにも、より安全に手術を行うことが可能になりました。また「低侵襲手術」は身体だけではなく、手術に対する精神的な不安も軽減するような副次的な役割もあるものと思われます。もちろんすべての患者さんで「低侵襲手術」を行うことができませんが、当科では今後もこれらの手術を更に積極的に行っていきたいと考えております。

最後になりますが、2022年もご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

表2. 痔核手術と硬化療法の推移

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
内痔核手術の件数	10	7	9	33	43
硬化療法の件数	2	1	7	24	34
硬化療法の割合	20%	14%	78%	73%	79%

図2. 乳癌手術における乳房温存手術・センチネルリンパ節生検の推移

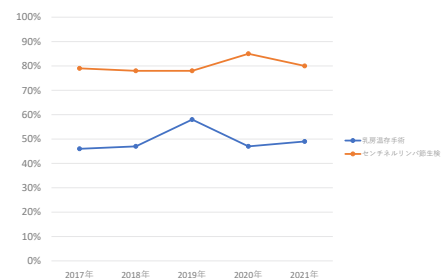


写真 胸腔鏡下食道切除の手術中の様子



より正確で安全な手術を目指し、立体視が可能な3D内視鏡装置を用いた手術を行っております



新任医師紹介

《出身地／出身大学／趣味・特技／抱負》



耳鼻咽喉科 なかざと あきら 中里 瑛

出身地：東京都町田市

出身大学：富山大学

趣味・特技：ドライブ

フットサル

抱 負：

11月より赴任いたしました。約10年前に糸魚川総合病院の初期研修医だった頃によく訪れた上越で診療に従事できることをうれしく思います。耳鼻咽喉科頭頸部外科医としてこの地域に少しでも貢献できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

骨粗鬆症外来からお知らせ

2021年11月号にて骨粗鬆症外来開始のご紹介をさせて頂きましたが、予約お申し込み方法の訂正がございます。

骨粗鬆症外来紹介患者事前申込書（FAX用）と診療情報提供書を一緒に地域連携センターへ送信していただくようにご案内いたしましたが、**骨粗鬆症外来紹介患者事前申込書（FAX用）のみ**送信してください。ご記入いただきました診療情報提供書は、予約時に患者様へお持ちいただくようお願い申し上げます。

医療機関様からのご紹介・お問い合わせは

上越総合病院 地域連携センター

電 話 025-524-3000（代表）

FAX 025-524-3140（直通）まで

